

令和5年度 横浜平沼高等学校不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

| 課 題 | 目 標 | 実施結果と目標の達成状況 |
|-------------------------------------|---|---|
| 1 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策 | 個人情報の適切な管理と、情報セキュリティ対策を徹底する。 | (ア) グループ主催の職員研修を行った。実務はスケジュールに基づいて実施し、扱う個人情報の共有を最小限とするなどで事故防止に努めた。 (イ) 職員に生徒連絡のルールを説明し、遵守を指導した。個人情報保持の際には手続きに誤りのないよう指導に努めた。 |
| 2 入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止 | 入学者選抜の実施と成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る体制と手順を明確にし、事故を防止する。 | (ア) 入学者選抜はインターネット出願システムの操作、運用に注力し、事故防止に努めた。成績処理は各行程での点検を徹底して行った。 (イ) 推薦業務では書類読取りや選考資料作成に注力し、事故防止に努めた。調査書作成、発行は行程に基づき行い、各段階での点検を徹底した。 |
| 3 生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止 | 啓発活動及び相談体制の整備によりわいせつ・セクハラ行為を防止する。 | (ア) 発達障害や性的マイノリティに関わる研修会を実施し、啓発、共通理解に努めた。 (イ) グループや学年団は若手とベテランとのバランスに配慮して分担し、業務を遂行した。 |
| 4 体罰、不適切な指導の防止 | 生徒理解に基づく指導を推進し、体罰・不適切指導を防止する。 | (ア) 啓発点検資料を用いた職員研修で不祥事案の把握、指導の在りようの確認を促した。 (イ) 職員研修を通じて不祥事事例の実態を把握し、生徒、保護者との信頼関係維持に努めた。 |
| 5 法令遵守意識の向上 | 公私を問わず高い倫理意識を求められる公務員として、県民の信頼の確保に向けて不祥事の根絶を目指す。 | (ア) 啓発点検資料を用いた職員研修で倫理指針の再確認とコンプライアンス意識の醸成を図った (イ) グループ主催の職員研修を行い、各校務に関わるルールやその取り扱いを詳しく確認した。 |
| 6 職場のハラスメントの防止 | 啓発活動及び相談体制の整備によりハラスメント行為を防止する。 | (ア) 啓発点検資料を用いた職員研修でパワハラの類型、適切な指導の範囲を確認させた。 (イ) グループや学年団は若手とベテランとのバランスに配慮して分担し、業務を遂行した。 |
| 7 業務執行体制の確保等 | 職員全体で業務の安全で円滑な執行のための体制づくりを進める。 | (ア) 各グループリーダーはメンバーの執務状況に応じて進行管理を行い、時々の課題について管理職と十分に協議して職務を遂行した。 (イ) 安全で円滑に業務を執行することができ、継承されるようデータの共有や打合せ記録の整備を進めた。 |

| | | |
|-------------------------------|----------------------------|--|
| 8 会計事務等の 適正執行 | 私費会計に係るルールを周知し、会計事務を適正に行う。 | (ア) 私費担当者は私費会計関係の不祥事防止研修を活用するなどして正確、確実な会計事務の遂行に努めた。 (イ) 2度の執行状況調査を行い、財務事務調査指導の内容も踏まえて職員に指導した。 |
| 9 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守 | 交通事故、並びに交通違反を未然に防止する。 | (ア) 啓発点検資料を用いて職員研修を行い、AUDITテストを実施し、各自が心がけるべき点を再確認させた。 (イ) 職員研修を通じて不祥事事例の実態を把握し、飲酒機会には適切に行動するよう心がけた。 |

○ 令和5年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和6年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

ゼロプログラムの実施とともに、職員一人ひとりが不祥事防止の観点から日常行動に問題はないかを定期的に点検した結果、当初の目標は概ね達成された。特に課題1, 2, 4, 8についてはグループで企画、実施した職員研修により、取組みを深めることができた。

令和6年度も令和5年度の各課題について継続して取り組み、特に必須5項目については重点的に取り組みたい。とりわけ、生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止については、倫理指針や緊急メッセージに基づき、指導を徹底したい。